

方策チーム 研究計画(たたき台)

1. 重視する研究の視点・アプローチ

- ①対象とする方策は、対処方策だけでなく、長期的な視座をもった方策を対象
(大局的、長期的な視座で、可能であれば社会に提言)
- ②マクロ(世界レベル、国レベル)からのアプローチと、ディテール(観光地、地方自体レベル)からのアプローチ
- ③歴史的アプローチ(SARS等の過去の感染症からの復興、大災害からの復興方策など)
- ④観光産業復興だけでなく、人間の生活において本質的な豊かさとしての観光の重要性を意識(観光ユーザーの視点、観光の持つ意味)

2. 対象とする方策

【ステージ・目標別】

- (1) コロナ感染拡大～収束へのステージ (感染防止・事業継続を重視)
- (2) コロナ禍からの復興ステージ (観光産業復興………)
- (3) アフターコロナのステージ (新感染症等のリスクに強い観光地形成)

【ステージ・目標別】

先進海外………国際チームのアウトプット参照

国(観光庁、経済産業省等)

地方自治体(都道府県、市町村)、観光地レベル

民間事業者

旅行会社、宿泊事業者、航空事業者、鉄道事業者等

3. 研究内容・方法等

- (1)各主体・ステージ別に取り組まれた方策の実態解明
 - ・国、地方自治体、民間等へのヒアリング・情報収集
 - ・関連資料・データ収集
- (2)方策の効果検証
 - ・上記と同様に効果推計に必要な情報を収集
 - ・効果推計
 - ・効果の評価・検証、課題抽出
- (3)課題や大局的・長期的な視座に立った方策提案
 - ・メンバーのブレインストーミング

エリア別
・研究メンバーのフィールド
・支部の活用

先進観光地を対象に
・東京 ・京都
・湯布院 ・富士河口湖
・佐原 ……

4. 国やJNTO、日本観光振興協会、その他業界団体等の情報や政策との連携？

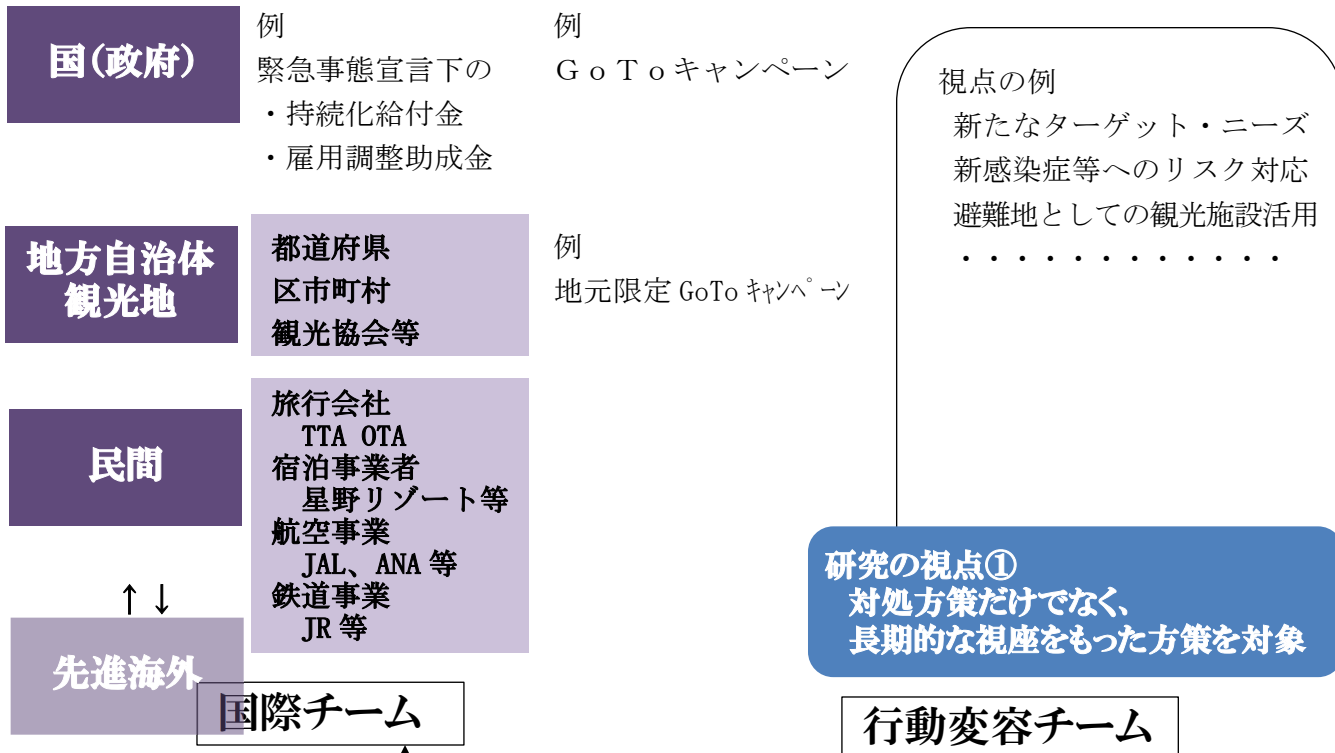
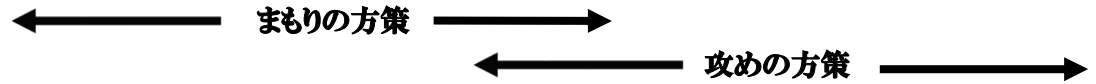
方策チーム 研究計画イメージ

●方策の切り口(ステージ×主体)

【ステージ・目標】



【主体】



研究の視点①
 対処方策だけでなく、
 長期的な視座をもった方策を対象

行動変容チーム

研究の視点②
 マクロ(俯瞰的な視点)と
 デイテール

展望・提案ブレインストーミング

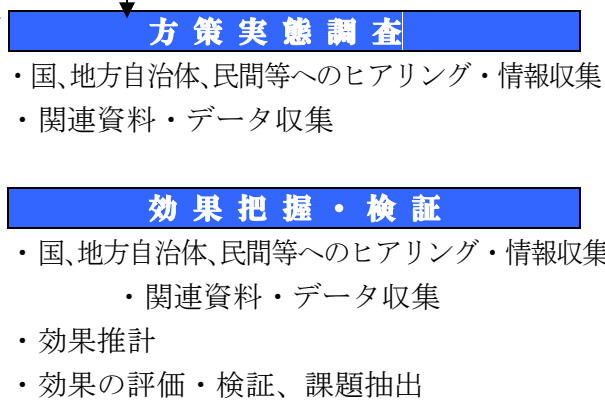
・メンバーによるブレスト

研究の視点③
 過去に学ぶ(過去の感染症、
 大災害等への方策)

●研究内容・方法

エリア別
 ・研究メンバーのフィールド
 ・支部の活用

先進観光地を対象に
 ・東京 ・京都
 ・湯布院 ・富士河口湖
 ・佐原



●研究の成果(アウトプット)



方策チーム 当面のスケジュール(案)

区分	国、地方、民間各グループ別 研究活動	方策チームの全体会議・取組	チームリーダー会議 (他チームとの調整)
役割	国の政策、地方の政策、民間の方策別に、研究成果を出していく。	方策チーム全体の研究の方向づけ 国、地方、民間グループ間の情報共有 や研究内容の調整	4テーマの情報共有・研究 内容調整・進捗状況等確認
6月		6/6, 6/20 方策チームに希望頂いたメンバーに、研究テーマに関するアンケート調査を実施	6/6, 6/27 方策チームの研究スキームの叩き台を提示
7月		チームリーダー(梅川、大西、熊谷間)で情報共有 7/25 研究懇話会(観光庁政策対応)	
	下旬～翌月上旬 3グループ別のキックオフミーティング開催		7/31 チームリーダー会議
8月	実態や効果に関する調査研究を開始 ↓ 適宜グループ別ミーティング開催	チームリーダー(梅川、大西、熊谷間)で情報共有	8月末頃開催
9月以降	実態や効果に関する調査研究を本格実施	方策チーム全体ミーティング開催(チームリーダー+参加希望者)	
12月		現時点では、それぞれのミーティングを1～2カ月に1回程度開催予定 ↓	
		全国大会 ワークショップ等の開催も可能 ↓	
来年6月		今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況や研究成果にもよるが、概ね1年を目途に成果をまとめる。	